

- 1 派遣期日 平成23年9月8日(木)
- 2 研修先 学校名 群馬大学教育学部附属中学校
所在地 群馬県前橋市上沖町612
<http://jhs.edu.gunma-u.ac.jp/>

3 研修内容

附属中学校公開研究会

「主体的に学び、互いに高め合う生徒の育成（最終年次）」1日目

*全教科・総合的な学習の時間・特別活動における授業と展示発表

(1)研究の基本的な考え方

①目指す生徒像

- ・話し合い活動に興味や関心をもって参加することができる生徒
- ・情報を基にしながらよりよい解決策を話し合うことができる生徒
- ・よりよい実践活動につながるために必要なことを自己決定することができる生徒

②具体的な手だて

手だて① 新情報の提供

手だて② 意図的に友達とかかわる場の設定

手だて③ 実践活動の評価

○手だて①について

新情報とは、生徒にとって身近な生活体験であるが改めて提示することで意識して考えることのできるものや生徒の日常生活であまり知ることのできないもの、これから経験することに関する情報などのことである。具体的には係や学級での活動、学校行事での体験、専門的な知識をもっている外部人材や最新のデータなどから得られる情報、上級生から得られる情報などが挙げられる。

学級活動での話し合いの議題を生徒にとって切実感のある議題とするために、これらの新情報を話し合いの前や話し合いの途中に組み入れていく。このことによって、議題に対して生徒が新たに気付いたり、議題の意義をより感じたりできるようになる。こうして話し合われたことから決定したことは自分の行うべきことが明確になっているため、学級活動の事後にも実践活動として行われてくるものになっていく。

○手だて②について

積極的に友達とかかわりながら話し合いに参加するためには、話し合い活動に興味をもった状態で自分の意見を友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりしていくことも大切である。そこで、「興味や関心をもっている」状態で意図的に友達とかかわる場面を話し合いの中に組み込んでいく。こうすることで、友達の意見を聞いているのみの状況から、互いに意見を交流できるようにさせていきたい。

研究1年目では話し合いグループの工夫により共通する考えや要素をもっている生徒同士でグループ編制を行ったが、それに加えて、予想されることをシミュレーションさせたり、誰かになりきってロールプレイを行わせたりする。このような場を話し合いの前後に組み入れていくことで、話し合いの際に意見を言わずに聞いているのみの状態をさけることができる。また予想したり他のものになりきったりすることで、普段は表せないことを表現したり、友達の考えを知ることができるようになる。このようにお互いの意見を交流させることができるようになると、友達の意見に共感したり、よりよい意見を見いだしたりできるようになり、話し合い活動が深まっていくようになる。このような場の設定を行うことで、友達の意見を受け入れたり、自分の意見を主張したりしやすくなり、話し合いの活性化が期待できる。

○手だて③について

話し合いの結果、集団決定や自己決定したことを評価していくことで実践活動を継続的

に行うことができ、自らの成長を実感できるようになる。また、集団決定や自己決定したことを継続的に行っていくことで集団や個人の資質向上を図ることができる。よりよい実践活動につなげるための集団決定や自己決定を行っていくために、事後において定期的に個人での振り返りや他者からの評価を行う機会を設ける。定期的に評価を行っていくことで、実践活動への自己の取組や実践活動の目的を振り返ることができ、実践活動への意欲を持続することにもつながっていく。

(2)公開授業

第1学年 学級活動 指導者 佐藤和之

題材名 よりよい学級づくりについて考えよう。

(1)学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

○研究主題にせまるために

実践①

上級生から体験談として、「他人任せになってしまう(係活動)」関係が続いたことで起こってしまった問題(失敗談)を話してもらおう。この体験談を聞くことにより、係活動で他人任せになっている現状が、学習や行事にまで影響してしまうことを知り、今の現状で改善すべき点を判断する際に、切実感を感じながら考えることができるようにする。

実践②

個人の改善策について、小グループで自分の考えを出し合う場面を設定することによって、お互いが考えている本音を知り、共感したり、励まし合ったりすることで、集団として協力してよりよい学級を作っていくことの大切さを理解することができるようにする。

実践③

自分の仕事ができている生徒に対しては、賞賛して自己肯定感を感じさせる。そして、今の現状に満足させず、よりよい学級をつくっていくためには、今の仕事に加えて仲間のためにできることを考えさせることで、より高い意識を持った学級集団を目指していきけるようにしていく。

学級活動を通して自己決定したことを、毎日の生活の中で実践し、週に1度、朝の活動の時間に振り返りを行わせることで、生徒自身が自己評価できるようにしていく。

○授業の様子

最初に教師がアンケートの結果などを簡潔に説明することで、本時の活動内容を把握し、よりよい学級を具体的にイメージできるようにしていた。係活動の改善というテーマのもと、アンケートをもとに同じ考えや要素をもっている生徒があつまった小グループを作っていたため、意見交換がスムーズに行われていた。新情報として、上級生の体験談(係の仕事に係長などに頼りっぱなしになってしまうと、係の中での関係がうまくいかず、結果として行事や授業の面でも関係がうまくいかなかったという内容)を聞かせたため、生徒の中で問題に対する切実感が増し、話合いに取り組む意識が変わったようであった。その後、小グループで話し合った内容を全体で共有していた。

4 感想

今回の研修で、話合いの中で生徒に新情報を提供することで、話合いの議題を生徒にとって切実感のある議題として考えさせたり、議題に対して生徒が新たに気付いたり、議題の意義をより感じたりできるようにしていく方法を学ぶことができた。ただ新情報は、その内容を吟味し、生徒が考え、感じることを事前に十分に予測していくことが必要であると感じた。

また、新情報によって、生徒の意識を高めてから話し合い、決定したことは、生徒の気持ちが入ったものになると考えられるので、その後も長く継続して実践されるものになることが期待される。

今後は、この指導方法を基に、本校の学級の実態と目的に沿った新情報をみつけ、授業計画を立て、実践していきたいと思う。